

# 小松島商工会議所 商業部会 議事録

日時：平成 29 年 3 月 21 日（火） 午後 4 時

場所：小松島商工会議所 会議室

出席者：商業部（5 名）、市産業振興課（2 名）、事務局（2 名）、他 4 名

## 1. 開会

## 2. 挨拶

今回、第 3 回開催

観光について話し合っていきたい。

## 3. 議題

### （1）徳島県観光協会での話

- DMO について
- 観光圏認定について
- 県の観光協会の立ち位置
- 現在の観光について
- 観光協会について
- 外国からの観光客について
- フリーWifi について（小松島では少ない）

### （2）徳島県商工労働部観光政策課での話

- 徳島県でのサンプル調査による宿泊数
- ビッグデータ解析
- 今年度マーケティング調査
- 来訪者調査
- インターネット抽出調査
- 今後について
  - ・観光活性化
  - ・徳島西部（祖谷などのエリアなど）について
  - ・その他

### （3）徳島県政策創造部地方創生局地方創生推進課での話

- 市観光協会設立に関して
- 観光協会の体制、組織、財源
- 観光協会のメリット
- 観光施策として
- 徳島県の取り組み
  - ・県観光協会
  - ・VS 徳島

- ・短編映画祭など
- ・消費者庁
- ・各種チャレンジ

#### (4) 小松島の観光のこれからについて

- 昔は観光地として成り立っていたわけではない。通過点。
- 土産物としては徳島ではなく四国として販売していた。讃岐うどんなどが売れていた。ちくわなどは例外。
- 昔は船に乗る前などに食事をしたりしていたが、現在はコンビニなどがあるためどこでも食事ができるようになっている。
- 他の地域は産業や農作物をクローズアップして観光協会が力を入れている。
- コンテンツはたくさんあると思う。
- 観光と関係なかったところと組んでやってみる。(公共交通機関、各種団体など)
- 地元の意識を変える。地元の魅力を中の人に知ってもらう。情報を地元発信する。
- 地域の人を楽しめるマルシェなど自分たちのメリットも考えて他の地域のいいところや業者などを調べる等するようになり意識も変わってくる。
- 祖谷などについては独自のものを発信。ビジョンを決めてやっている。ラフティングなどについて県外の人間が運営等している。ラフティングをするにはこの土地というので祖谷が選ばれたようだが地元ではあまり知られていなかった。
- 小松島独自でほたる祭りなど、地元では当たり前になっているが他のエリアではないものもある。美郷、勝浦などでもそれらは行っている。
- 椎茸。水。米。
- 宿泊先、レンタカーなど
- 他の部会などにも横断して話し合っていく。

#### (5) 振興条例の意義などについて (床桜教授のお話)

地域再生・活性化に力を入れている。

サテライトオフィスの立ち上げ等に携わる (日和佐、神山)。

災害の避難所の取り組み。(amazon など利用)

シームレス民泊。(阿南市内) 民泊を災害時に避難所に切り替える。

中小企業振興条例の意義。

- 地域再生・活性化
- 重点施策に中小企業施策を位置付け
- 中小企業の意識変革

がんばる中小企業応援条例を策定。

条例・・地域の状況によってそれぞれの規制を上乗せするなどの規則。罰則規則。

中小企業振興条例 (罰則を持たない)

中小企業の位置付け、必要性、運用するための条例。

議論のプロセスを表に出し、パブリックコメントを受け、最終議会などで決めていく。

作成後、絵に描いた餅になりうるため、その後の実現を重要とする。

中小企業の位置付け・・・中小企業は弱者ではなく地域のイノベーションを行っていく。分野においては大企業の知識や能力、技術力を上回っている部分もある。

がんばる中小企業を応援していく。

中小企業振興、商工振興、中小企業の施策の優先度を上げる、  
中小企業の意識をあげていく。

条例ができた後検証していく組織を置く。

こまつしま中小企業イノベーション研究会（仮称）のようなものを設置  
地域、企業を結ぶ戦略をまとめて提案。

企業、病院などを繋げていく。

社会の変革、地域戦略、企業戦略を合わせていく。

オンリーワン補助金（徳島県）などを申請して商工会議所イノベーション研究会の立ち上げシンポジウムなどに利用していくことも可能性としてあり。

クルーズ船寄港にかかる観光事業なども考えていく。

コアな研究会の立ち上げ。（プロジェクトを立ち上げる）

プロジェクトを応援してもらう施策を考えてもらう。

各部会を横断しての組織を作る。

インバウンドの客船は去年が初めてだった。

国内客、海外客それぞれに向けての事業が必要。

対インバウンドとしては、特別に何かをする。または普通のものを買ってもらう。

着地型観光と体験などを繋げていく。

札所。外国人お遍路さんは情報発信が優れている。

クルーズ観光の方々も情報発信している。

その方々に情報を発信していただく。

歴史文化というものをビジネスにつなげていく。（札所2か所）

インバウンドという潮流。クルーズ船が寄港できるのは小松島しかない。

自らのビジネスにつなげる研究会。

イノベーション。新しいものを生み出し観光につなげる。

研究会などを通じてそれぞれの企業の経営理念。存在意義などを考えることも必要。

企業の社会貢献は持続可能な経営。利益をあげる。従業員の満足度。税金を納める。

(6) 次回部会

4月4日(火) 15時から